

新年ご挨拶

一般社団法人全国木材組合連合会

会長 鈴木和雄



新年おめでとうございます。旧年中は、皆様方には本会の運営に格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年は、林野庁が創設された「新たな森林管理システム」と「森林環境譲与税の配分」がともに4月からスタートするという画期的な年です。

「意欲と能力のある林業経営者等」を主体とする森林管理システムの着実な実行に期待するとともに、日本の森林を守る上でこうした山側の対策と同じくらい重要な課題である国産材の需要創出にとっても飛躍の年となることを期待しています。

特に、我々木材産業関係者にとっては、森林環境譲与税の使途に木材利用促進が位置付けられ、これまであまり木材が使われてこなかった都市部等での木材利用拡大へのチャンスが巡ってきているものと考えているところです。

すでに3時間耐火部材も大臣認定を受けており、木造での超高層ビル実現も夢ではありません。佐賀や仙台での例のように、柱や床などの木質化による中高層ビルの木造化の例も出てきており、木材利用の促進に対しての理解が急速に広まってきています。

また、東京都の小池知事が提唱し、全国知事会に創設された「国産木材利用促進PT」では、都市が木材利用の促進に取り組むことで地方の森林を助けていくという新しい枠組みが取り上げられており45の都道府県が参画しています。

元々、森林資源は我が国唯一の再生可能な循

環資源であり、適時に伐って使ってやるのが森林の活力を生かすことに繋がります。

中高層ビルに木材を使うことにより大都市がCO²を固定する環境都市に生まれ変わり、林業が成長産業化することで地方創生や雇用拡大が図られ、さらに森林資源も充実します。まさに都市での木材活用は「SDGs」の模範的なモデルにもなり得ると確信しています。

戦後に建てられた都会の多くの建物が建て替え時期を迎えており、味気ないRC造やS造の建物をもう一度建築するのではなく、環境に優しい木造や木質化された建物にしていくことが「当たり前」になる時代が来ていると考えています。

今年は猪年です。こうした森林・林業・木材産業に吹く追い風をつかみ、本年を「都市木造化元年」とすべく、全森連始め広く林業関係団体とも力を合わせて、全木連の総力を挙げて努めていくこととしたいと考えています。

皆様方のご支援、ご協力を是非お願い申し上げます。

本年が森林・林業・木材産業並びに皆様方にとって、素晴らしい一年となりますことをご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。

